

# クラウドビジネス推進部会 報告

2011年12月5日

クラウドビジネス推進部会  
副部長  
株式会社日本セパレートシステム  
高橋亮人

# クラウドビジネス推進部会 方針



- \* ビジネスドリブンのクラウドサービスを提供
  - \* 具体的なビジネスモデルを提案するために、様々な分野に特化したサービスを提供
  - \* サムライクラウドの三位一体連携を基盤技術として採用

## 分野に特化したサービス例

震災対策クラウド

物流クラウド

教育クラウド

.....など今後拡大

# 物流クラウド

- \* 日本セパレートシステムの“物流現場支援システム HandTime” からスタート
- \* サムライクラウドの三位一体連携でシステム間連携を実現し、連携メリットを生かしてトータルに物流支援



# 物流現場支援システム HandTime 開発の背景①



<お客様（荷主企業）様>

「システムはすでにあるからそれを使って運営してください」

<物流現場>

▼システムが現場に合わず、生産性を上げるのにも限界がある。。。

⇒ “システムに合わせた作業” → 本末転倒

▼現場の生産性の“見える化”を進めたくても必要なデータを提供してもらえない。。。

⇒ 改善が進まない。改善を進めても荷主様にアピールできない。

作業効率向上の妨げ。。。

# 物流現場支援システム HandTime 開発の背景②

## 自社でシステムを導入しよう

やりたいこと

### ①現場主導型のシステム

作業効率が上がるリストの出力

作業効率が上がるレイアウトの変更のためのデータ

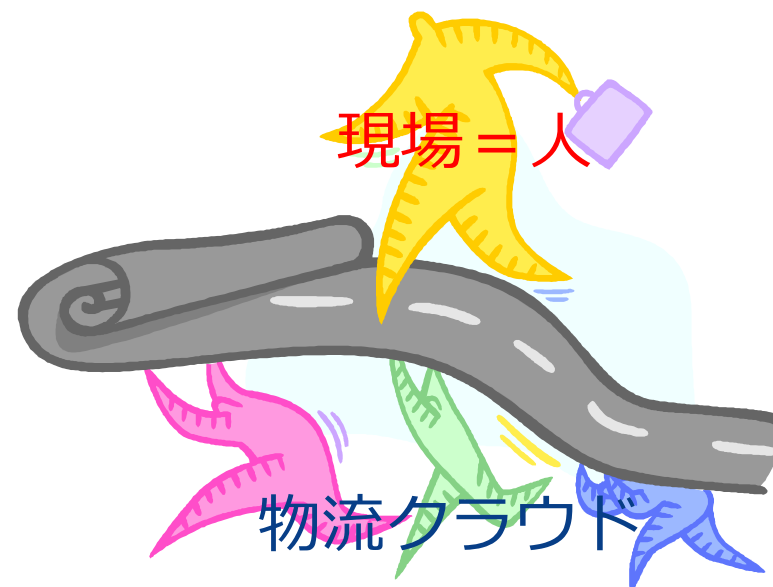
### ②生産性の把握

個人ごと、全体

作業完了時刻の予測

など

# 物流クラウドのポジション



現場を支援するのが物流クラウドの役割

# 物流クラウド ホームセンター倉庫の導入事例



## 物流クラウド

生産性管理

生産性集計システム

作業補助

ゾーンカルテ  
発行システム

ピッキングリスト  
発行システム

時間管理／庶務軽減

勤怠管理／作業管理システム

A社用

B社用

C社用

HandTimeサーバー

WMS  
(荷主様システム)

HandTime  
レコーダー

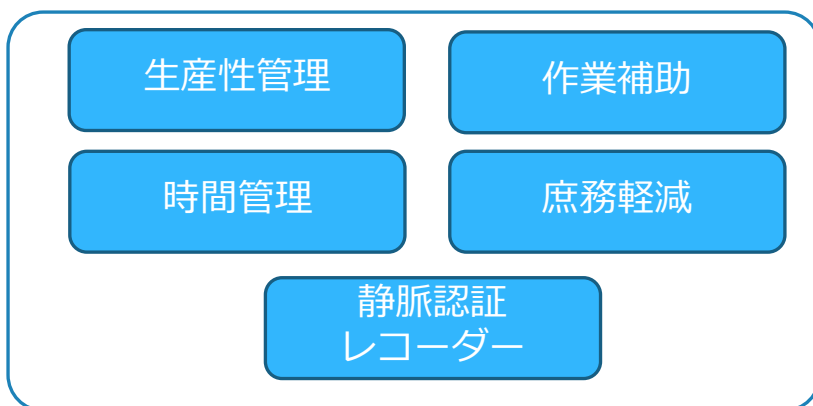
HandTime  
レコーダー

# クラウド型にするメリット

- \* 複数の物流センターでの利用が容易
  - \* どのセンターでも同じサービスの提供が容易。
- \* スケールアップ・ダウンが容易
  - \* 頻繁にに新設、統合、廃止が行われている。
- \* サーバーのメンテナンスが不要
  - \* 情報システム部門がないことも多くある。
- \* システム間連携が容易
  - \* 他社システムとも連携しやすい。



# 連携によるチャンス拡大



現場支援システムHandTime

+

他システム



## 価値あるデータの創造

例えば、、、

HandTime + 販売管理システム  
→ 物流量予測による現場人員  
アサイン

## ビジネスチャンスの 拡大へ